

宿泊外国人比率 85%のホテルが、日本の美で訪日外国人をおもてなし

「**万古千秋－神秘の泉 橋場信夫展**」を開催いたします

2016年9月19日（月）～12月4日（日）

パークホテル東京（運営：株式会社芝パークホテル 東京都港区、代表取締役社長 柳瀬連太郎）は、訪日外国人のお客様を中心に「日本の美」をお楽しみいただけるよう、日本の四季をテーマとした展示会「ART colours (アートカラース)」を年4回行っておりますが、その第18弾として、2016年9月19日（月）から12月4日（日）まで、「**万古千秋－神秘の泉 橋場信夫展**」を開催いたします。

パークホテル東京は、宿泊者の外国人比率が高く、2016年7月の外国人の宿泊比率が85%を超える状況で推移しています。「日本の美意識が体感できる時空間」というコンセプトのもと、訪日外国人のお客様を中心に、日本の美を楽しんでいただけるよう館内各所でアートを意識した空間づくりを進めておりますが、中でも、客室の壁をキャンバスのようにして直接画を描いた「アーティストルーム」(※注) が大好評をいただいております。

そのアートプロジェクトの一環として開催される「**万古千秋－神秘の泉 橋場信夫展**」では、ラウンジ全体を会場に、美術家の橋場信夫をはじめとする現代作家達による、古代の息吹を感じさせるようなアート作品を展示、販売いたします。

展示会のタイトルとなる**万古千秋**（ばんこせんしゅう）とは、「はるか過去から未来までずっと」の意。「千秋」は千年で、非常に長い年月、永久を表します。アーティストが創り出す美術作品の中には、作家本人の自覚如何に関わらず、そこには太古からの人間の集合的記憶が蓄えられているかもしれません。芸術の秋とも言われるこの季節、私達の中の太古の記憶を蘇らせる神秘的な力、根元的な訴求力を持つ優れたアート作品を展示いたします。

展示会場では吹き抜け天井から注ぐ光を感じてのアトリウム散策、作品をご覧いただきながらデザートセットやお茶などもお召し上がりいただけます。また、夜には期間限定の作品とコラボしたオリジナルカクテルをご用意し、高さ30mの壁面には展示作品をモチーフとしたプロジェクション・マッピング映像が映し出されます。

パークホテル東京では、訪日外国人の皆様にも、日本の文化を楽しんでいただきたいとの思いを込め、今後も様々な日本の美をご紹介してまいります。



会場 / プロジェクション・マッピング (イメージ)

■ART colours Vol.18「万古千秋－神秘の泉 橋場信夫展」 概要■

【期間】2016年9月19日(月)から12月4日(日) 無休 11:30~22:00

【会場】パークホテル東京 25F アートラウンジ 【料金】入場無料

【出品作家】メイン展示：橋場信夫 オブジェ：池田満寿夫、野田雄一、石田泰道

【協力】不忍画廊

【映像制作】antymark annex 【総合プロデュース】creative unit moon

※臨時イベントにより会場内入場の時間制限などを設ける場合も有。

■展示会をテーマとしたお料理等■ ※料金はすべて消費税・サービス料(10%)含む金額です

提供期間：9月19日(月)~12月4日(日)

アートラウンジ (25F)

デザート：「林檎タルト-秋の夕焼け-」(写真上)

喫茶時間(14:30-17:30) 1,800円 コーヒー付き

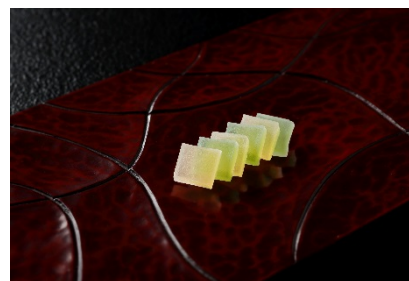
ディナータイム(17:30-22:00) 1,200円



和菓子：「今このとき」(写真中段)

和菓子作家 坂本紫穂 監修

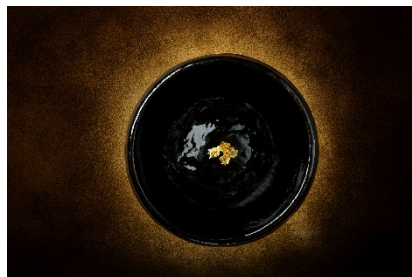
*アフタヌーンティーのデザートの一つとしてご提供



バー ソサエティ(25F)

カクテル：「on the Zen circle」1,600円(写真下)

カクテルデザイナー/鈴木隆行



■その他展示情報■

C-DEPOT Japan Fusion 一鳥一

アーティスト集団C-DEPOTによる展示会シリーズ。四季が織りなす自然観を表す「花鳥風月」から一字ずつを各展のテーマに設定し、展覧会を通して日本の美意識とアート、そしてホテル空間との融和(fusion)を試みます。2回目となる本展では、「鳥」をテーマに5人のアーティストによる作品を展示いたします。

【日時】2016年8月29日~9月18日 【会場】パークホテル東京 25F アートラウンジ

【出品作家】かなやまひろき / 堤岳彦 / 星川あすか / 山田だり / 山本理子 【料金】入場無料



注：アーティストルーム

「相撲」、「禅」、「桜」といった様々な「日本の美意識」をテーマに、客室そのものをキャンバスとして、直接壁に絵を描いた客室。2016年中に31Fフロアの客室31室すべてをアーティストルームにするべく、8/24現在、25室の客室と喫煙スペースが完成。完成した部屋から随時販売中。

シングル 35,000円 / ダブル 40,000円 / キング 50,000円 (税金・サービス料込)

【特設サイト】 <http://www.parkhoteltokyo.com/artcolours/aih.html>



<本件に関するお問い合わせ>

パークホテル東京 マーケティング部 広報：宮崎、早乙女

Email : y.miyazaki@parkhoteltokyo.com 〒105-7227 東京都港区東新橋 1-7-1 汐留メディアタワー

TEL : 03-6252-1111(代) FAX : 03-6252-1001

[出品作家]

橋場信夫 NOBUO HASHIBA

1950年東京生まれ。1978年、エコール デ ボザール アトリエ ヤンケル(パリ)で学び、画家のロベール・クートラスと親交を結ぶ。このパリ留学時代にラスコーの壁画を見た衝撃「…壁に手を当て口に含んだ顔料を吹きつけた手形の壁画、岩肌をみて牛の形態を見出した牛の絵…」により具象油彩画を捨て「絵画の根源」を辿る制作を現在まで続ける。橋場信夫の洗練された抽象芸術は、15,000年前のラスコー洞窟に壁画を描いた名もない太古の絵師と同じように、キャンバス上の点、あるいは線からイメージを広げ描き出し現代の視点で昇華したものである。



個展：不忍画廊、平野古陶軒、ギャラリー無境、ギャラリー上田、ベイスギャラリー、アサヒギャラリー、ティル ナ ノーグ ギャラリー、t-Gallery など多数

その他：「千年の恋展（花人・川瀬敏郎の為の作品制作）」1997 赤坂プリンスホテル、2000年沖縄サミット晩餐会為の制作、ホテルや老舗料亭へのアートワークも多数。

近年、皇后陛下・美智子様、ダライ・ラマ 14世に作品を献上。

本展では代表作・大作を中心に、今個展の為に制作した新作小品なども展示致します。

展示会キービジュアル「日輪」

池田満寿夫 MASUO IKEDA 1934～1997 旧満洲国奉天生まれ

1965 ニューヨーク近代美術館個展／1966 ヴェネツィア・ビエンナーレ展版画部門グランプリ／1977 『エーゲ海に捧ぐ』《芥川賞》・1979年、映画となり大ヒット／1984 高島屋日本橋店で初の陶芸展／1986 熱海市にガス窯と電気窯を備えた「満陽工房」設立、現在、「池田満寿夫記念館」として熱海市が運営／1995 東京国際コンテンポラリー・アート・フェスティバル (NiCAF1995) にて新作展。(NiCAF1995) にて新作展 (※本展出品の「神々の器」を発表) 阪神・淡路大震災の犠牲者鎮魂のため、清水寺(京都)で、縦4m×横7mの和紙に「般若心経」の経文を揮毫／1997 逝去。池田満寿夫美術館(長野県松代市)が開館。

野田雄一 YUICHI NODA 1955～ 徳島県生まれ

現在、富山ガラス造形研究所教授、(財)富山ガラス工房館長

1981 瀬戸内寂聴の私塾「寂聴塾」第1期を卒業(現在まで心の師となっている)／1988 国際ガラス工芸展《銀賞》／2004 北日本美術大賞展《大賞》受賞／2005 「スーパーエクスタシー至福への旅路」(神奈川県民ホールギャラリー/横浜)、ウラジオストク国際映画祭グランプリ・トロフィー製作／2007 第4回円空大賞展《円空賞》受賞(岐阜県美術館)／2008 「変貌するガラス-野田雄一の世界」刊行記念展(不忍画廊/東京、日本文化センター/パリ)、「ローマ賞典祭」《ローマ市民賞》受賞(ローマ日本文化会館/ローマ) ※本展では、2008 富山県出身ノーベル化学賞受賞者の田中耕一氏に贈られた「宇宙卵」と同シリーズを展示。ガラスに気泡を封じ込めたオブジェは、宇宙模様が浮かび上がり海外でも「宇宙と音を感じる」と絶賛される。

石田泰道 ISHIDA TAIDO 1968～ 山梨県生まれ

1993 筑波大学大学院芸術研究科修了／1990 頃より「地底」をテーマにアッサンブラージュ大作に取り組む 1997 より「もり」をテーマにしたインスタレーション「MORI - PROJECT」、翌98年、オブジェの野外設置「樹海プロジェクト」を通し、自己と作品、場の関係を検証し、「エネルギー」、「円環」の理念を導く／2000 「JUKAI PROJECT」富士樹海・ギャラリー野ばら→尾白の森・浅川画廊(山梨)／2005 「円環へ-漂流するもの05-06プロジェクト」山梨県立美術館・朝霧高原(静岡)・照ヶ崎海岸(神奈川)・名栗湖(埼玉)・笛吹川清水深谷(山梨)各地を巡回／2010 「キュレーターズ・アイ 石田泰道展」(山梨県立美術館企画)、「千曲川漂流プロジェクト」長野県小布施市～飯山市「DOCUMENT 円環-命脈」、現在、風化作用に固執したオブジェ、またドローイングを中心に制作を展開。行動美術協会会員、山梨美術協会会員、山梨県甲府市在住。 ※本展では、メイン展示の橋場信夫作品に呼応するよう、立体オブジェ展示予定。